

留学だより No.3

こんにちは。ロシアに留学している山屋です。こちらは気温が氷点下くらいまで下がり、マンションの集中暖房が入り始めました。

わが町ヴォルシスキー①

私がホームステイしている町ヴォルシスキーは、人口32万人の工業都市です。

もともとこの町は、ステップの真ん中の人のいない集落でしたが、1950年にスターリンがこの町を流れるヴォルガ川に巨大ダムと水力発電所を建設する事業を決定したことにより、ダム建設労働者のため、果てはヴォルガ沿岸の重工業都市として開発されました。ヴォルガ川の水力発電所は1961年に完成し、その後もヴォルガ川沿岸に多数の工場が建設されました。

その中には、「ヴォルジャーニンバス工場」もあり、現在その工場はロシア100都市に大量のバスを供給するほどに成長しています。

町の中心は「レーニン大通り」で、途中には「V.I.レーニン名称広場」という名前の広場があります。その広場の真ん中にはレーニン像があり、町のシンボルとなっています。レーニンだらけですね。

市内中心部、レーニン大通りに面する形で「建設労働者広場」があります。これは、前述のヴォルガ水力発電所の建設労働者を記念したもので、記念碑、公園、文化劇場などがあります。文化劇場の上のオブジェは「インテリ（共産党員）、建設労働者、コルホーズ員、芸術家を表している」だそうです。ソビエト時代の模範的市民というわけですかね。



↑記念碑 ↗レーニン像



↓文化劇場



↑町のオブジェ 町の建設30周年記念とのこと



↑飛行機のオブジェ どうやら飛行場があったらしい



↑州都ヴォルゴグラードを眺める 山が全くないのは日本にはない光景

ロシアの公共交通機関

社会主義国家であったソ連では、自家用車の保有は困難でした。また、特にソ連が成立してから建設された都市では、道がとても広くとられ、市街地の住居はほとんど集合住宅（1970年あたりからフルシチョフが大量建築した。通称フルシチョフカ）であったことから、大量の労働者を職場まで輸送するために、公共交通機関が発達しました。この項では、ロシアで一般的な公共交通機関を紹介していきたいと思います。

今回は、道路交通の紹介をします。ロシアで最も一般的な交通手段はバスです。日本と変わりません。バスはこの町には20系統あり、そのうち2系統が都市間連絡の中距離バス、残りが都市内連絡の中短距離バスです。ただ、中短距離といっても、郊外の住宅地にまで向かうバスはかなり長い距離を走行します。運賃はいくら乗っても一律20ルーブル！日本円にして33円（10/31/19のレート）と、とても安いです。運賃は、社内にコンドクトルと呼ばれる人（女性が多い）がいて、その人にお金を払うと切符（図③参照）をもらえます。他の情報によると、一部都市ではこれを持っておく必要があるらしいですが、この町では、切符をくれるバスとくれないバスがあるので、有名無実になっていると感じました。

ロシアで走っているバスは、ほとんどが自国製です。この町でよく見るのは、上記のヴォルジャーニン製（のちに Volgabus に社名変更）や、リキノ・バス工場製の物が多いです。ほとんどがソ連崩壊後のバスですが、一部明らかに崩壊前の旧型バスが走っているところもあります。

また、ロシア国内では、「マルシュルートカ」（Маршрутка）と呼ばれる乗合バスが多く走っています。基本、バスと同じルートを走行していて、バスより圧倒的に本数が多いため、バスを補完する役割を担っているのかなと感じました。運賃は基本的に運転手に直接渡すため、運転しながら料金を受け取る器用さが運転手には求められます。車種はだいたいロシアの ГАЗ 製のバンで、たまにフォードやシトロエンなどの外車が走っています。特に、長距離車は外車率が高いです。席数は13席、たまに来るハイルフ車は立席があるという感じです。

ОБЖ という教科



↑ ГАЗель（最も多い車種）

←車内 椅子は固い

切符→



↑①ヴォルジャーニン製 Volgabus-4298

↑②ヴォルジャーニン製 Волжанин 6270

②は当時世界最大級のバスだったらしい



ロシアの高校には ОБЖ (直訳：生命と防衛の基礎?) という教科があり、生徒はこれを履修することになっています。どんな教科か一言でいえば、「民間防衛の訓練」という感じです。

私が所属している十年生の教科書には、主に知識面として「主なテロ攻撃の実例と解説、対処」や、「ロシア連邦内の防衛体制、ロシア軍の組織、主な兵器の名前、性能、写真」が載っていて、実践面として「自動小銃や拳銃の分解組み立て方法、射撃時の姿勢、行進訓練のための姿勢の図解、敬礼の方法、簡易的な塹壕の掘り方」などが載っていて、とても高校の教科書とは思えない内容だと感じました。

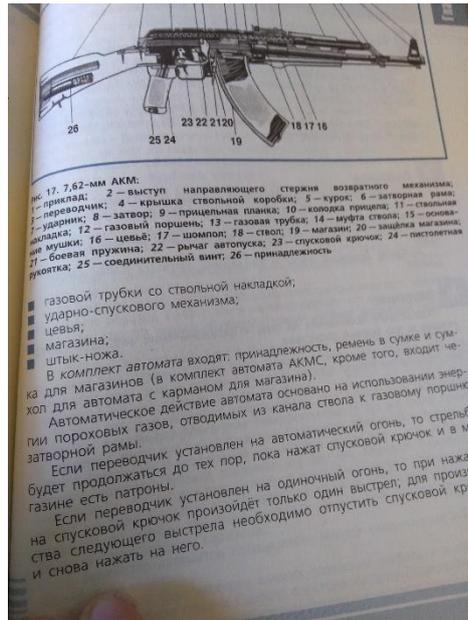
また、教室には「ロシア軍の肩についている階級章一覧表」が掲示してあり、その教室だけ軍事施設の様相でした。ほかの地域に派遣された生徒によると、AK-47 を用いた実銃射撃訓練もあるということです。



←教科書の図 拳銃や機関銃、戦車(T-90)などが乗っている
→教室掲示 上は階級章で下はAK-74Mの図解



↑ロシア軍の敬礼、行進の仕方の図解 右下はおそらく5月9日の対独戦勝記念日のパレードの写真



↑AKMの図解 この教科書が普通に書店で買えるのが驚き 気が向いたら翻訳してみたい



↑① 市街戦の図解 各兵士の役割などが載っている
↑② おそらく空挺軍の写真